

## 障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに思いやり、

支え合う社会をつくるために～



## 市職員（非常勤職員）を対象に研修会を開催し、105人が参加しました

### 研修の概要

市職員のうち、非常勤職員を対象に、「ともに生きる条例」について理解する職員研修を行いました。  
平成30年8月27日（月）～28日（火）の2日間で4回開催し105人の職員が参加しました。



### 研修メニュー

今回の研修は、次のメニューで行いました。

- (1)ともに生きる条例について（障害福祉課説明）  
ともに生きる条例の内容、合理的配慮の考え方、合理的配慮実践例の紹介など
- (2)障がい当事者が置かれている状況（講師団講師）  
実体験に基づき、障がいのある人の生活の困難さや必要な配慮などについて説明
- (3)体験  
車いすに乗車して段差を越える体験、アイマスクをつけて移動する体験

### 受講者の声

- この研修を終えてのアンケートに多かった感想として
- ・障がいへの心遣いの認識、社会的障壁を意識するために必要と感じた。
  - ・平等に公共サービスを受けられない状況自体が、差別に当たるという認識はなかった。
  - ・実際の経験や思いを直接聞くことが出来るのは貴重。
  - ・当事者（家族を含む）の方は、本当に辛い思いをしていることができた。
  - ・当事者の話を聞くことにより、具体的な条例理解に繋がった。

### 講師による講義

今回は、次の7人の講師の方にお話をいただきました。

佐藤 紘造さん（精神障がいのある人の親）

大野 有香さん（精神障がい）

河野 龍児さん（肢体不自由）

大久保 多津子さん（重複障がいのある人の親）

西村 務さん（聴覚障がい）

永松 温子さん（重度心身障がいのある人の親）

それぞれの実体験を基にしたお話や、今後の福祉に関する期待、合理的配慮についてのお願ひ、ご自身がいかにして今後障がいと向き合っていくかなど、いろいろな視点から個性ある講話をしていただきました。

河野さんからは、旅行等を通じて感じた移動の困難性や、合理的配慮を推進する上で、より多くの方の意見を聞き、より多く



の方のニーズを満たす施策実施の必要性をお話いただきました。



永松さんからは、重度心身障がいのある子どもの成長過程や、子どもの成長とともに変化する親の心情、これからは家族

だけでひっそりと生活するのではなく、周囲との繋がりを持ち、地域で生活していきたいという思いをお話いただきました。

発行：別府市福祉保健部障害福祉課

E-mail : haw-hw@city.beppu.lg.jp

TEL : 0977-21-1413、FAX : 0977-22-1780